

番組審議会

第17回BSよしもと番組審議会

■開催年月日：2026年2月6日（金）

■開催場所：BSよしもと株式会社 会議室

■出席した委員（敬称略）7名中6名出席 *あいうえお順 敬称略

大網直子（一般社団法人おーあみ避難所 代表理事）

川上和久（麗澤大学教授）

久保博（一般財団法人日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）

品田英明（元味の素AGF株式会社代表取締役社長）

清水義次（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）

山田奈美香（山田・尾崎法律事務所 弁護士）

■議題

1.開会の辞（審議委員長）

2.開会の挨拶（稲垣社長）

3.新任番組審議委員の紹介

4.副審議委員長の選出

5.編成関連のご報告（年末年始特番放送報告、1月改編動向等について）

6.視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

7.番組審議

対象番組：「レイザーラモンRGのあるある60分一本勝負 in 京都」

2025年12月14日放送

8.閉会の挨拶（泉取締役）

9.閉会の辞（審議委員長）

10.事務局からの連絡

川上審議委員長による開会の辞に続き、社長 稲垣より、BSよしもとが開局以来展開してきたネット同時再送信サービスの提供を3月末を以て終了することを報告した。理由としてはアクセス数が激減する中、自社サイトのアーカイブ配信に加え、TVer（ティーバー）やYouTubeといった多様なデバイスでの視聴対応が可能となったことにより判断したものであることを説明し、各審議委員に理解された。また、BS放送局の最近の動向についても報告し、審議会をスタートした。

■審議の経過の概要等

1. 新任番組審議委員の紹介

前回の審議会を以て審議委員を退任した大原鶴美副審議委員長、竹中ナミ審議委員の後任として新たに2名の審議委員が着任したことを報告し、うち今回出席した一般社団法人おーあみ避難所 代表理事 大網直子審議委員を紹介し、着任の挨拶が行われた。

2. 副審議委員長の選出

前副審議委員長の後任者の選出が審議委員間の互選により行われ、新たな副審議委員長として、山田・尾崎法律事務所の山田奈美香弁護士が選出され着任した。

3. 編成関連の報告

清水編成制作局長補佐より、年末年始特番の総括と1月編成の動向について、以下のポイントについて説明を行い、確認された。

- ・ **年末年始編成戦略**：ブランド力のある「吉本新喜劇」の特別編成を中心に、視聴習慣が獲得できている芸人の趣味を活かした人気番組「タカトシ&ライオンの新ゴルフやろうぜ!」を1月3日に縦軸で集中的に編成し、併せて「東西南北よしもと麻雀リーグ」を12月29日から1月3日までの深夜25時帯に横軸で集中編成した。
- ・ **話題性がある番組の編成**：昨年11月1日にサービスを開始した、ダウントウンが出演する配信プラットフォーム「ダウントウンプラス」のPR番組「大晦日の超緊急特番! 今、話題のダウントウンプラスを徹底解剖スペシャル」を放送。また、前回の審議対象番組である「戦後80年特番」の「第一部 あの日の空へ 特攻隊の声を聞く」および「第二部 舞台『Mother 特攻の母 鳥濱トメ物語』の再放送を編成した。
- ・ **視聴実績**：全枠において目標値を超える高スコアを記録し、概ね順調な結果となった。
- ・ **1月編成の動向**：売上の最大化を主目的とした通販枠の拡大に加え、スポンサーの意向により「ショップチャンネル」の放送時間枠を23時台から19時台へ移行。また、20時30分から連続編成している「吉本新喜劇」の直後にも新たに通販枠を設けた。
- ・ **配信と放送の相乗効果における課題**：公式YouTubeで人気の番組（「東野・山里のインプット」「水田信二の注文の多い料理教室」等）が、放送の視聴数に直結していない点を課題とし、YouTubeから放送への視聴誘導を重点テーマとして現場との意見交換を行っていく方針を説明した。

4. 視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

考査部より、昨年 10 月～12 月中にコールセンターに寄せられた視聴者からの意見についてのサマリーを報告し、全審議委員に確認された。

5. 番組審議

対象番組：「レイザーラモン RG のあるある 60 分一本勝負 in 京都」

2025 年 12 月 14 日放送

初めに、番組チーフ・プロデューサーから番組概要についての説明を行い、続いて審議委員長による進行で審議を行い、各審議委員から寄せられた質問については番組プロデューサーが応答する形式で番組審議を行った。

1 各審議委員からは、以下のような意見が寄せられた。

- ・「余白を楽しむ」という番組テーマとコンセプトを理解するのに時間がかかったが、理解できた時点から面白いと感じるようなユニークな番組である。
- ・最後まで「余白を楽しむ」という番組の作風に馴染めず、入り込むことができなかった。
- ・「余白を楽しむ」という贅沢な尺の使い方が、一緒にゆったりと旅をしているような感覚を覚える番組で、タイム・パフォーマンスが重視される現代の志向に対しての問題提起をも感じた。
- ・レイザーラモン RG や藤崎マーケットの関西ベテラン芸人ならではの芸風に精通している視聴者はすぐに世界観に入り込むことができると思われるが、初めて体験する視聴者のための説明があるとより広い視聴層が楽しめるのではないか。
- ・ロケ地の選び方が、地上波では取り上げられないようなユニークなスポットが取り上げられており、ゲストの入れ込み方も良く、吉本らしさを楽しむことができた。
一方で馴染みが無い場所のため、地図や説明があった方が親切だったのではないか。
- ・前半は商品を意識したネタや表現があり、後半になると吉本色が濃くなるという構成であったため、このような番組作りにおいては一社提供番組の企画であることを説明し、視聴者がどの様に受けとめるかに注意を払うことを今後も意識していくことが必要である。
- ・芸人の多彩さとの組み合わせにより、まだまだ企画を創出できる可能性が感じられるユニークな番組なので、他の観光地を取り上げてのスポンサーの獲得を積極的に目指してみてもどうか。

2 上記の番組についての意見・感想を受け、番組チーフ・プロデューサーから、敢え

てロケ地等の説明を省いた部分もあったが、よりネタを重視する番組作りにしたこと、通常の番組作りではしっかり編集すると 20 分程度の番組となるような内容を敢えて余白を楽しむような 1 時間番組にしたこと、閉館した祇園花月で行われていたネタをテレビ版のような位置づけの企画であったことなど、番組企画の背景について説明を行い、全ての審議委員に理解された。

6.閉会の挨拶

事務局より次回の開催時期を確認後、最後に泉取締役より「本日いただいたご意見を参考に、今後も良い番組作りを目指したい。地方創生の取り組みとしては、月曜から木曜に生放送でお届けしている地方活性化をテーマとした放送『発信 Live!ジモトノチカラ』内の市町村長にも出演いただくコーナー企画「ニッポン全国ふるさと自慢」の出演自治体数が 355 件にも達し、地域スポンサーの有料タイアップ案件も順調な伸びを示している。また昨年末に放送し好評だった「営業-1 グランプリ 2025 総決算スペシャル」の番組販売が現在 7 地方局への販売が決定した人気番組となっており、これからますます BS よしもとの看板番組の活動も含め、全国の地方局への販売数を増やし BS よしもとの認知度を高めていきたいと考えており、地域創生に繋がる BS 局として地域に貢献できるよう取り組んでいくのでご支援をお願いしたい。」という報告と挨拶が行われた後、審議委員長は閉会の辞をもって審議会を閉会した。

■現在の BS よしもと審議会委員（敬称略）

※2026 年 2 月現在

川上和久（委員長／麗澤大学教授）

山田奈美香（副委員長／山田・尾崎法律事務所 弁護士）

石川牧子（フリーアナウンサー/NPO 法人日本マナー・プロトコール協会 理事）

大網直子（一般社団法人おーあみ避難所 代表理事）

久保博（一般財団法人日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）

品田英明（元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長）

清水義次（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）

以上